OUKA
The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	大阪大学大型計算機センター25周年によせて
Author(s)	寺田, 浩詔
Citation	大阪大学大型計算機センターニュース. 1994, 93, p. 1-2
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/66063
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

巻頭言

大阪大学大型計算機センター25周年によせて

大阪大学大型計算機センター長
寺田　浩詔

大阪大学大型計算機センターの四半世紀は、本号に頂戴した歴代センター長の回顧談からも窺えるように、多くの関係者のご努力とそれを支援していただいた方々のご好意とに支えられた２５年間でありました。まず始めに、これまで大阪大学大型計算機センターの創立と以後の発展に努力された、歴代のセンター長、研究開発部の教官諸氏ならびに事務長はじめ事務部の皆様のこれまでの真摯なご努力に厚く御礼を申し上げると共に、学内外で本センターを今日まで支援して戴いた、文部本省、大阪大学事務局を始めとする関係各位に衷心から感謝の意を捧げたいと存じます。また、格別のご協力を戴いている六大型計算機センターならびに学術情報センターの各位、さらには、特に当大型計算機センターの利用を通じて、支援をいただいた全国の利用者各位に御礼を申し上げたいと存じます。

過去二十五年間には、計算機の処理速度、記憶容量などが飛躍的に増大し、特に性能価格比が驚くべき向上を遂げた結果、その応用面でも画期的な変容がもたらされました。現在の計算機技術あるいは情報処理技術は、単に科学技術計算のみならず、社会生活のあらゆる側面を普遍的に支援する技術として、社会の重要なインフラストラクチャーであると考えられるようになったことはまことに喜ぶべきことであります。これは同時に、従来にもまして、情報処理技術への責務が増大を続けることをも意味しています。

たとえば、量的には高速・大容量処理能力への要求はなお止まるところを知らず、さらに、質的に異なった水準とさえ言える、高度な利用技術の開発への期待もまた非常にし烈であります。ことに最近では、計算機技術の発展と並んで、光通信の導入によって、通信技術が革命的とさえ言ってよい発展を遂げつつあり、情報処理技術にも強い影響を与えています。昨年度には、大阪大学でも最新のＡＴＭ技術を採用した総合情報通信システムＯＤＩＮＳが導入されたほか、ほとんどの国立大学ならびに研究機関に、光伝送を中核とする、ローカル・ネットワークの導入がほぼ完了しました。また、大学・研究機関の間を結ぶ通信回線も高速・大容量化が進行しつつあり、同時に高速大容量通信回線を利用した新しい情報処理環境の実験も全国的規模で開始されようとしています。さらに、対外的には、国際回線の増強も着々と進行しております。

一方では、計算機技術の進展もまた、従来採用されてきた超高性能化の常套的な手段の再考が迫られる、ある種の限界的な状況に達しているように見受けられます。その結果、情報処理技術もまた、超並列処理などの新しいパラダイムを求めて、大きな変容を見せようとしております。我々は、ある意味で基本的な情報処理の考え方の変化をもたらす可能性のある技術領域にも積極的に対応しなければならないと言う深刻な課題に直面していると言って差し支えないでありましょう。

このような情報処理ならびに情報処理環境の変化は、技術的にも社会的にも、より緊密な協調環境を指向しているように思えます。この事実は、全国共同利用センターとしての

大型計算機センターの在り方に大きな変革を求めていることは申し上げるまでもありません。すなわち、これまでのような高速・大容量情報処理機能や視覚化環境の提供はもちろんのこと、全国的な分散・協調処理の核としての役割の確立、広域分散的なマルチメディア・データベース提供の中心としての役割の充実、地域ネットワーキングのノードとしての役割の強化などなど、より広い視野に立った、新しい処理機能の統合と協調の中心としての役割を果たしていくことが、国内のみならず国際的にも、求められつつあることを実感しています。これらの課題を着実に達成するためには、独り大阪大学大型計算機センターの能力強化に限らず、全国的な大型計算機センター間の協調、地域ネットワークの強化と活用、国際的なネットワーキングの強化などを中心として、新しい協力関係に基づく、統合的な情報環境の確立に努力を傾けることが緊急の課題であろうと考えています。

このためには、大阪大学大型計算機センターの研究開発能力のさらなる強化を図ることは言うまでもありませんが、ますます増大する業務量に対応して、技術ならびに事務的陣容の強化を進めるとともに、極力能力の向上と合理化とを進めて、新しい処理・通信環境に適応できるよう、たゆまぬ努力を重ねることによって、新しいサービスを積極的に生み出し、その責務を果たして参りたいと願っております。

しかし、既に述べましたように、このような情報環境は、独り大阪大学大型計算機センターのみの努力では結実しないものであります。このためには、これまで以上に、他センターならびに全国の利用者との協力関係さらには国際的な協力を強化することによって、統合的な処理と通信の機能を充実させることが求められています。次世代の大阪大学大型計算機センターへの発展には、種々の側面での、格段のご支持が不可欠の要素であることを固く信じております。これまで、本センターを支えていただいた、利用者ならびに関係各位のご支援に改めて感謝申し上げるとともに、新しい大阪大学大型計算機センターの在り方を求める諸活動にさらなるご支援を戴けるようお願いを申し上げてご挨拶に代えさせて戴きます。